

科目名	フードデザイン	使用教材	教科書 『フードデザイン 新訂版』 実教出版 副教材等 『フードデザイン学習ノート 新訂版』 実教出版
単位数	2 学年； 2 単位履修 (選択履修科目)	評価方法	評価の対象；「定期考査」「小テスト」の得点 「課題やレポート」の提出物 「授業や実習・実験への取り組み」の姿勢・出席状況 評価の割合；「定期考査」の点数が 70% 「その他の評価」が 30%です。

学習到達目標

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。

★授業について

○1 学年で学習した家庭基礎や食生活に関する知識・技術をさらに発展させ、日々の生活で使えるものにしていきます。実習・実験を通じて、基礎的・基本的な栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートに関する知識と技術を身につけます。豊かで健康的な食生活の自立を目標とする実践的な授業です。「食」に関心を持つとともに、調べ学習や課題を通じて、生きていく上で使える知識・技術にしていきましょう。

○安全・衛生に気をつけ、調理にふさわしい身だしなみで実習に参加しましょう。

○講義形式・班別学習・班別作業・料理実習など様々な形態の学習活動を行いますので、積極的に参加しましょう。

★自主学習について

◎予習

日本料理・西洋料理・中国料理、その他の献立や調理方法を調べ、教科書や資料に目を通しておきましょう。

◎復習

授業で学んだ知識を日常生活で活かしてください。実習で作った料理は必ず家で作り、家族にも評価してもらいましょう。また、季節に合わせて材料をかえ、オリジナルの料理も作ってみましょう。

評価の観点

観 点	評 価 規 準
A：関心・意欲・態度	食生活に関心を持ち、改善しようとする意欲があるか。豊かな食生活を目指し、主体的に調理の活動に取り組もうとしているか。
B：思考・判断	家族や自分の健康を考えて、食物が選択できるか。自分の食生活の問題点を発見し、解決するための具体的方法を考えることができるか。
C：技能・表現	調理の基礎的・基本的技術を習得し、家族や友人などとの楽しい食卓を演出することができるか。
D：知識・理解	栄養・調理・マナーなどの基本的な知識を身につけ、楽しく豊かな食卓の演出する方法を理解しているか。

学習計画

A：関心・意欲・態度 B：思考・判断 C：技能・表現 D：知識・理解

●学習の要点 ◆学習習慣・学びの発展 ＊心の成長

月	週・時	単 元	目 標	学習の要点
4		○ オリエンテーション 【第1章】 ○ 食事の意義と役割 ○ 食生活の現状とこれからの食生活	・現代の食生活の現状を知る。 ・食物の役割を認識し、食が心身を育むうえでも大切なものであることを理解する	◆授業に対する心構え・参加の仕方【A】 ●現代の食生活とこれからの食生活の創造【B】 ●栄養素のはたらきと体の仕組み【D】
5		【第2章】 ○ 体のしくみと食べ物 ○ 栄養素の役割	・5大栄養素についての知識を深める。	*食べられることへの感謝(便利さ追求や飽食について考える)
6		○ 栄養素の種類とはたらき		
7		○ 消化と吸収	・食事摂取規準について理解し、自分の健康を維持・増進するための食事について考える。	●目的を考慮した献立作成【A・B】
9		○ 食事摂取基準と食事計画(夏季課題) ○ ライフステージと栄養		◆食にまつわる諸問題について新聞などから情報を集める
10		【第3章】 ○ 食品の特徴と性質 ○ 食品の生産と流通 【第4章】 ○ 調理の目的 ○ 食べ物のおいしさ	・家族の栄養摂取、食物摂取における課題を認識し、解決方法を学ぶ。 ・様々な食品の特徴をしり、安全で栄養価の高い食品を選ぶ力を養う。	●食料資源と世界の食環境【D】 *日本の豊かさの裏にあるものについて理解する。 ●加工食品や発酵食品【B】
11		○ 調理器具と料理操作	・食中毒・食品添加物の用途を理解するとともに購入に際しての選択法を身につける。	◆気候や風土にあった食物や調理法を学び、世界の料理や郷土料理に興味を持つ。修学旅行(関連)
12		【第5章】	・食生活をより豊かにするために必要な調理方法や料理技術を身につける。	●食卓作法 *他者への気配り
1		○ 料理様式と献立 ・ 日本料理 ・ 西洋料理 ・ 中国料理	・基本的な食卓の作法を知る。 ・目的や条件に応じた献立作成ができる。	●和風・洋風・中国料理の献立の料理形式について【D】 ●和風・洋風・中国料理の献立調理実習【C】 *食物を大切にすること *食べられることへの感謝の気持ち
2		○ テーブルコーディネート 【第6章】 ○ 食品の選択と調理	・食卓の整え方や周囲の環境作りができる技術を身につける。	●年中行事と料理【D】 ●テーブルコーディネートの意義と要素について【C・D】
3		○ 献立作成 ○授業評価・自己評価	・旬の食材や身近な食材を用いたオリジナル料理などを開発する。	●食品の多様化と選択【B】 ●個々の学習ニーズに対応した発展的学習【A】 *各自の姿勢を振り返る

科目名	発達と保育	使用教材	教科書 『発達と保育 新訂版』 副教材等 『発達と保育学習ノート』
単位数	2 学年；2 単位履修 (選択履修科目)	評価方法	評価の対象 ；「定期考査」「小テスト」の点数・「課題やレポート」の提出物・「授業への取り組み」の姿勢・「実習の取り組み、レポート」の完成度・出席状況 評価の割合 ；「定期考査」の点数が70%「その他の評価」が30%です。

学習到達目標

乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育に関する知識や技術を習得し、子どもの健全な成長を図る能力と態度を育てる。

★授業について

○講義形式・班別学習・個人作業・保育実習・保育検定など様々な学習活動を行います。

★自主学習について

◎予習

自分の生き立ちや自分の身体に興味関心を持ち、青年期の性のあり方、妊娠・出産の仕組みを日常生活の中で振り返る学習をする。

人間として発達するという観点から自分の乳幼児経験を踏まえ、保育の原理や方法について現状を把握する学習をする。

◎復習

子どもの発達段階に応じた基礎的・基本的保育技術（検定）が身に付いているか確認する。

★その他

専門教科や一般常識の知識として、又将来の保育者としての知識と技術に役立つ科目です。

評価の観点

観 点	評 価 規 準
A：関心・意欲・態度	子どもの身体的・精神的発達や保育に関して関心を持ち、それらを意欲的に学ぶ姿勢が見られる。
B：思考・判断	子どもの発達や保育に関する幅広い知識を身につけ、また実習や観察などを通して、子どもの行動を客観的に判断し、理解を深めることができる。
C：技能・表現	子どもの発達や保育に関する基本的な技術を身につけ、子どもを取り巻く問題について自身の考えを発表などで表現できる。
D：知識・理解	子どもの発達や保育に関する幅広い知識を習得し、子どもの行動や生活を充実向上させるために必要な知識を総合的に身につけている。

A：関心・意欲・態度 B：思考・判断 C：技能・表現 D：知識・理解

月	週・時	単 元	目 標	学習の要点
4	2	第1章 人間としての発達 1. 人間発達のなかの乳幼児 (1) 子どもの成長とその条件	○人間としての発達に大切な乳幼児の成育条件について学ぶ。 ○乳幼児の発達の特徴を理解する。	◆ビデオ視聴「いのち」 【A・D】 ＊命の尊厳を考える
	3	(2) 乳幼児期	○発達観の歴史を学び、保育に必要な発達観を理解する。	◆ビデオ視聴 「乳児の保育」 【A】
	4	2. 発達観と保育 (1) 発達観の変遷 (2) 保育に必要な発達観		●乳児の保育での留意点 ◆ビデオ視聴
	5	(3) 子どもの発達と保育		「幼児の保育」 【A】
5	1	第2章 発育すること 発達すること		●幼児の保育での留意点 (保健センター等の見学)
	2	1. 胎児と新生児の発育 (1) 胎児から新生児へ	○胎児の発育の特徴を理解する。	
	3	(2) 身体的特徴 (3) 生理的特徴	○胎児期のよりよい発育環境がわかる。	◆保育人形活用 【C・D】
	4	2. 乳幼児の発育 (1) 身体の発育 (2) 生理的特徴 (3) 発育の評価	○乳幼児の生理的特徴及び発育経過がわかる	●乳児の保育にあたっての模擬保育 ＊自分の乳幼児期の振り返りによる自己確認
6	1	3. 乳幼児の精神発達 (1) 発達の特徴 (2) 精神発達	○乳幼児の発育と精神発達の特徴を理解する。	
	2	4. 人間関係の発達 (1) 親子関係と子どもの発達 (2) 人間関係のひろがり	○人との絆や形成がこの時期からののはたらきかけによって影響することを理解する。	◆保育技術検定4級にむけての導入(折り紙作品製作) 【A・C】
	3	5. 発達の個別性と保育 (1) 発達の個別性と影響要因	○発達の原則を踏まえ、身体的発達と精神的発達は密な関係を持つことを理解する。	●実践的保育技術の演習
	4	(2) 心の健康と保育 (3) 問題となりやすい行動		
7	1	第3章 子どもの生活 (1) 生活と養護 a. 生活 b. 健康管理	○子どもの生活、食事、遊び、生活習慣の形成などについて知る。	◆保育技術検定4級実施 【A・C】
	2	c. 養護 d. 栄養と食事 e. 被服と寝具 f. 遊びと運動		●実践的保育技術の習得 ◆市販の乳幼児服のデザイン演習
9	1	(2) 生活習慣の形成 a. 生活習慣の意義		【B・C】 ◆紙おむつと布おむつ特徴比べ
	2	b. 基本的な生活習慣 c. 社会的な生活習慣		【B】 ●実験・実習をともなう演習
	3	(3) 健康管理と事故予防 a. 日常の健康の変化	○日常の健康管理、予防接種、事故防止と安全教育の必要性がわかる。	◆乳幼児養護実習 【A・C】
10	2	b. 病気の看病と予防 c. 事故の防止と応急処置	○乳幼児の救急処置が実践できる。	◆保育技術検定3級にむけての導入 ●実践的保育技術の演習
	3	(4) 生活環境 a. 生活環境の変化	○家庭・社会・自然環境が及ぼす	◆基本的な看護と事故の応急処

11	4	b. よりよい生活環境をめざして 第4章 とともに生活する	影響と望ましい保育の環境を考 える。	置方法 (幼児安全法講習) 【A・C】
	1	(1) 保育の必要性和意義 a. 保育とは b. 人間形成と保育 c. 保育の目標	○「保育」という言葉の意味を知 り、育つ・育てる・育ちあう保育 であることを学ぶ。	◆調乳の実習 【B・C】 ◆保育技術検定3級実施(任意)
	2	(2) 指導の原理 a. 乳幼児にふさわしい生活の展開	○子どもの遊びの意義について 理解する。	◆離乳食実習(市販の離乳食利 用)
	3	b. 遊びを通して行う保育 c. 環境を通して行う保育 d. 一人ひとりに応じる指導		◆子どもにあったおもちゃづく り、絵本・紙芝居づくり 【C・D】 *保育演習に対する心構えのあ り方
12	4	(3) 保育者の役割 a. 保育者の役割とは	○子どもの発達段階に応じてお となのかかわり方を理解する。	
	1	b. 保育者の役割をささえるもの c. 指導の実際		
	2	(4) 家庭保育と集団保育 a. 家庭保育 b. 集団保育	○家庭保育と集団保育の特徴と 役割が分かる	
	3	第5章 子どもの福祉 (1) 児童観の変遷 a. 児童観とは	○児童観はおとなの価値観や世 界観によって大きく左右を受け、 時代の推移とともに多くの変遷 が見られたことを理解する	◆基本的な看護と事故の応急処 置方法(幼児安全法講習) 【B・C】
1	4	b. これまでの児童観 c. こんにちの児童観		◆新聞や保育雑誌利用(調査) 【A・C】 *現代の保育に対する自己の考 え方の確立
	2	(2) 児童福祉 a. 児童福祉の意義	○児童福祉に関する法律がわか る。	
	2	b. 児童福祉に関する法律 c. 児童福祉のための機関・施設		
	3	(3) 児童家庭福祉 a. 社会的支援の必要	○進む少子化・高齢化問題と仕事 と育児の問題を考え、必要とされ る援助は何かを考える。	
2	4	b. 子育て家族への支援 c. エンゼルプランと子育て支援		
	3	d. 今後の課題と展望		
3	1			